



自民党
神奈川県議員
川崎 修平 横浜市鶴見区
昭和53年12月生まれ。
神奈川県議会議員(2期目)
新型コロナウイルス感染症対策特別委員会 事務局長
国際文化観光・スポーツ常任委員会 副委員長
決算特別委員会 委員
自民党神奈川県連 青年総局長
自民党青年局 中央常任委員会 副議長

ご挨拶

2021年を迎え、国内で新型コロナウイルスの感染者が確認されてから1年が経過しました。現在も第3波の最中にあり、1月に発令された緊急事態宣言も延長が決まりましたが、日本が諸外国と比較して低い水準で死者数を食い止められているのは、日頃より感染症対策にご協力いただいている皆様と最前線で治療・対応に当たって下さっている医療従事者・関係者の皆様のご尽力の賜物であると存じます。改めまして、新型コロナウイルスと戦う全ての皆様に深い敬意と御礼を申し上げます。

私は昨年、神奈川県議会に設置された「新型コロナウイルス感染症対策特別委員会」の事務局長に就任し、県民の皆様が少しでも安心して生活が出来るよう様々な情報発信、県内における対策等を協議してまいりました。先日も、臨時の仮設医療施設を訪問し、中症状患者、人工透析患者、精神疾患合併症の病床確保の取り組みに関する調査を行ってまいりましたが、安定した医療体制を整えるためには感染者の数を減らすことが何よりも重要です。まだまだ予断は許さない状況ではありますし、皆様も日々の生活の中で大変なご苦労や不安を抱えていらっしゃるのでは存じますが、これからもより一層、国、県、市が一体となって真摯に取り組み、少しでも安心して安全に暮らせるよう体制を整えてまいります所存です。

是非、皆様にも私の活動にご理解を頂き、ご指導・ご協力を賜りたく存じます。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

川崎修平の活動は、
皆様お一人おひとりのご支援に支えられています。
活動費の捻出が課題となっております。
皆様のお気持ちで個人献金によるご支援をお願いできれば幸いです。
個人献金頂ける方は下記連絡先へご連絡お願いいたします。

【お問い合わせ】

川崎修平政務調査事務所
〒230-0051 横浜市鶴見区鶴見中央1-13-9-101
TEL 045-642-6322 FAX 045-642-6661

HP: <https://www.kawasaki-syuhei.com> Mail : info@kawasaki-syuhei.com



「新型コロナウイルス感染症対策特別委員会」



臨時の仮設医療施設を訪問



臨時の仮設医療施設を訪問



病床確保の取り組みに関する調査

発熱等診療予約センター受付窓口
対象 発熱・咳・咽頭痛のいずれかの症状のある方
よやくじゅしん
0570-048914 (9:00~21:00) LINE公式アカウント
一部のIP電話など上記番号につながらない場合
045-285-1015 新型コロナ対策 パーソナルサポート から受付

新型コロナウイルス感染症専用ダイヤル
ゼロコロナなし
0570-056774
一部のIP電話など上記番号につながらない場合
045-285-0536
1 無休(24時間)
2 平日、緊急事態宣言発出中の土日祝日(9:00~17:00)
9 3 4 平日(9:00~17:00)

- 音声案内
- 1 感染の不安のある方、健康・医療に関する事、COCOA・濃厚接触者に関する事など
 - 9 協力金に関する事
 - 2 営業時間短縮要請に関する事、大規模イベント開催の事前相談に関する事
 - 3 経営相談に関する事
 - 4 LINEコロナお知らせシステム、その他



昨年の9月17日、令和2年第3回定例会において川崎修平が一般質問を行いました。質問の様子は動画で見ることが出来ますので、ご興味のある方は是非ご覧ください。

- 1 中小企業の海外販路拡大に向けた越境EC導入等の支援について
- 2 教育現場における授業動画のアーカイブ化について
- 3 県立高校におけるVR・AR技術を活用した教育活動について
- 4 テクノロジーを活用したスポーツの新たな取組について
- 5 AI防災の積極的な導入について
- 6 災害時における活用を踏まえた電動車の普及について
- 7 「金融リテラシー」を身に付ける取組について



ご確認ください！

現在、大変多くのお電話をいただき、つながりにくい状況となっております。受診ができずお困りの方が利用できるよう、発熱、咳、咽頭痛のいずれかの症状があり、かかりつけ医での受診ができない方のみお電話いただきますようお願いいたします。また、保健所や、接触者アプリCOCOAから、濃厚接触者であると連絡を受けている方は利用しないでください。保健所等の指示に従ってください。なお、本予約センターは、PCR検査の予約を行うものではありませんので、予めご了承ください。

コロナ最前線で奮闘する医療従事者の声を聞く

新型コロナウイルスは怖い病気。県民の理解と協力が必要です

2020年12月。新型コロナウイルスの感染者が増え“第3波”に直面する中、横浜市内で新型コロナウイルス患者の診療にあたっている総合病院を訪れ、病院経営者が抱える課題と行政への要望、そして、コロナ最前線の現状を伺った。

—日本で初めて新型コロナウイルスの患者が確認されてから間もなく1年が経過しようとしています。まずは、当時の病院の様子とどのように治療に当たってきたのかお聞かせください。

ダイヤモンド・プリンセス号内で新型コロナウイルスの患者が発生した段階で「これはえらいことになるぞ」と緊張が走りました。

特に私どもは(船が停泊している)横浜市内にある病院ですので、余計に身構えると言いますか、2月頃は他の都道府県よりも強い危機感を持っていたと思います。それから感染が拡大していくにつれて、当院にも新型コロナウイルスに感染していると疑われる患者さんが診察を受けに来るようになり、感染を広げないために駐車場に専用車両を確保し発熱外来を設けました。現在も陽性患者の入院治療は行っていないですが、一般外来と発熱外来を分けて対応しています。

—メディア等でも苦労しながら診療にあたる医療関係者の映像をよく見るようになりました。やはり新型コロナウイルスの診察は難しいものですか。

そうですね。マニュアルを徹底しているので(発熱や味覚障害等)明らかな症状があれば対応出来るのですが、中には無症状の方が別の病気・怪我で病院を訪れるケースもあります。細心の注意を払い、感染の疑いがある患者はできるだけ院内には入れず屋外で対応にあたっていますが、「いかに外から一般病棟にウイルスを持ち込ませないか」「感染を広げないか」ということには毎日かなりの神経を使っています。加えて、当院では検体検査などは固定の担当スタッフに専任でやってもらうようにして、それ以外の職員とコロナ感染疑いの患者との接触を極力抑えるようにしています。



—これほど多くの感染例が出ても「新型コロナウイルスはただの風邪だ」という論調も見られますが、医療現場から見た新型コロナウイルスの恐ろしさはどのようなところにあるのでしょうか。

高齢者や持病、基礎疾患をお持ちの方が発症すると重症化してしまう恐れがある一方で、無症状の方が無自覚にウイルスを広げてしまう点が最も恐ろしいと思います。しかも、このウイルスは感染力がかなり強いんです。ご存じの方も多いと思いますが、今年は例年に比べてインフルエンザに罹る患者さんの数が極端に減りました。これは皆さんが感染症対策を徹底していることが要因に挙げられるのですが、それでも新型コロナウイルスの感染者数は増えている。つまり、それだけ広がりやすいウイルスであるわけで、そうなるとうちの国民が自分も感染していると想定した上で絶対に人には移さないつもりで行動していくしかありません。自分は若いから関係ないと思わず、家族や友人など大切な人たちを守るために対策を徹底していただきたいと思っています。

—県としても手洗い・うがい・マスクの着用・ソーシャルディスタンスの確保など様々な感染症対策を県民のみなさまにお願いしているところではありますが、今後、私たちが取るべき行動やあまり知られていない感染症対策などがあれば教えてください。

極端に聞こえるかもしれませんが、触る物全てにウイルスが付着している、接する全ての方が感染症に罹っていると思って生活をするべきだと思います。結局のところウイルスは人間の目・鼻・口から入ってくるので、極力出先でマスクを外さないのは勿論、手洗い・消毒をする前にマスクを外して手で鼻や口を触らない、目を擦らない、帰宅したら目も洗う、これが重要です。それと、布マスクやウレタンマスク・スポーツマスクは効果が薄く、TVタレントがよく使っているフェイスシールドは全く意味がありません。不織布のマスクが一番良くて2枚重ねで使うだけでもかなり効果は上がります。

—第3波の真ただ中にある中、医療現場の疲弊や看護師の離職が増えているという報道を見ます。先日、日本医師会が「医療危機的状況宣言」(12月21日)を発表しましたが、現在の医療現場の状況をお聞かせください。

まず、感染者数の増加によって保健所が機能しなくなっています。物理的に情報を捌けなくなっているのが、濃厚接触者の感染経路を追う作業すらできなくなっているんです。結果、保健所が患者の受け入れ先を探せなくなり、コロナ患者の診察をした病院任せになる。そうすると、今度は受け入れ先を他県にまたがり擦り付け合うような状況になり、救命救急との関係もギクシャクしてしまうという悪循環に陥っていると思います。

—病院側が受け入れ拒否をせざるを得ない理由とは何なのでしょう。

人的資源の余裕がない、設備・病床の受け入れ態勢が整っていない、風評被害を恐れている、この3つが大きいと思います。大きな病院はまだ人的資源に恵まれている部分がありますが、我々のような中小規模の病院は物的・質的にも限界があります。それに加えて、家族の反対にあたり、周囲から心無い差別を受けてしまったソーシャルワーカーたちの離職が起き始めているので、せめて医療現場で働く人々に対する理解だけでも深めていただければと思います。皆さん、身の危険を承知で使命感を持って最前線で働いてくださっていますので。

—県民の皆さんに伝えたいことはありますか。

新型コロナウイルスは、ロックダウンのような強力な措置を取らなければ取めるのが難しいと思います。しかし、もし、それが法的に難しいのであれば、可能な方はテレ



ワークにするとか不要不急の外出をしないとか、それぞれが出来る対策を続けて感染者数を徐々に減らしていくしかありません。いま、限られた人数でコロナの対応が行われ、看護職員たちも連日の長時間労働で精神的にも肉体的にも限界がきています。そんな業務過多の中で、外来受付・診察等で一般の患者さんを長時間を待たせてしまうことが、どうしてもできてしまいます。この時に看護師や職員に対して様々なご意見・クレームを頂戴しますが、患者の言葉一つ一つに傷ついてしまい心が折れてしまうケースが少なからずあるのが現状です。

コロナの対応をしていること自体が、とてつもないストレスである中、看護師・職員の精神的な負担は増加しておりますし、一人でも多くの命を救うべく日々仕事をしていますので、医療関係者・従事者に対するご理解とご協力をいただければと思います。

< インタビュー後記 >

院長からは、アメリカ産の医療物資(N95医療マスクやリトリルと呼ばれる医療用手袋)の確保、中小規模の病院への補償、風評被害をなくす対策、厚生局に提出するための説明書類に関する事など、病院経営者が行政に求める要望を伺った。

諸課題を改善して病院側の負担を少しでも軽減できるよう、県に働きかけてまいります。

